

風が吹き、千の波が湖面を走る。

千波湖 いきもの BOOK

市民に親しまれている千波湖は、自然が^{ゆた}かで多くのいきものが生息しています。
そんな千波湖の自然について学びましょう。



豊かな水と緑をみんなで作る 未来へつなぐまち 水戸

水戸市は、その名のとおりの豊かな所です。そして、水のある所というのは、多くの生き物を育む環境を作ります。千波湖を中心とした地区は、ホテルが舞い、サケが桜川をのぼってくるなど、生き物たちにとって、とても大切な場所となっているのです。

千波湖 (淡水湖)
面積: 約332,000㎡
(東京ドーム7個分くらい)
周囲: 約3km
容量: 約365,000㎡
平均水深: 約1m(最大水深約1.2m)



千波湖の歴史	千波湖の伝説
千波湖のはじまりは、那珂川の氾らんなどでできた、浅い沼だったと考えられています。江戸時代には、敵の侵入を防ぐ水戸城のお堀としての役割がありました。その後、大正時代に埋め立てられ、今の千波湖の形になったのです。	千波湖を作ったのはダイダラボウという巨人だと言われています。ダイダラボウは水戸市大足町に住んでいて、山の日影になるので困っていた村人のため山を移したら、今度は水がたまって困ってしまい、指で川を作り、その下流にできた沼が千波湖だということです。

千波湖には、楽しいところがいっぱい！



ピオトープや小川のあるせせらぎ広場



森の中にある^{とりで}砦で思いっきり遊べる少年の森

さかさがわ 逆川緑地には、自然を体験できるスポットがたくさんあるよ



水遊びがしたくなるピクニック広場



かんざつ 観察にはもってこいの昆虫たちのはらっぱ



千波湖のすぐとなりを流れる桜川

公園は、自然とたくさんふれあえる場所です。ジョギングをしながら、森の中で遊びながら、目にしている自然を、ちょっと立ち止まって感じて、観察してみよう。新しい発見があるかもしれないよ。

水を求めて、^{わた}渡り鳥など多くの鳥たちがやってきます。



●ハクセキレイ

水戸市の鳥です。全長21センチくらいで、「チチン チチン」と鳴きながら波型に飛ぶのが特徴です。



●カワセミ

空中に止まっているように（ホバリング）して、エサをさがし、見つけると水に潜ってつかまえます。



●アオバヅク

青葉のころにやってくる^{わた}渡り鳥です。冬になるともっと暖かい^{あたたか}国に渡って行きます。



●ジョウビタキ

全長14cmくらい。頭が銀色で、胸がオレンジ色なのがオスです。冬に日本にやってきます。



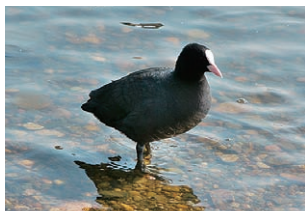
●コサギ

全長60cmくらいで、黄色い足が特徴です。水田などの浅い^{ひかひか}水辺でカエルや小魚を食べ、巣は木の上に作ります。



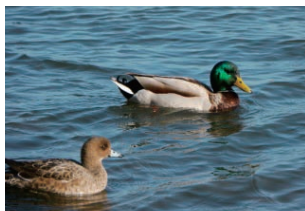
●ユリカモメ

赤いくちばしと足がきれいな鳥で、冬に日本にやってきます。昔から「都鳥」という名前で知られています。



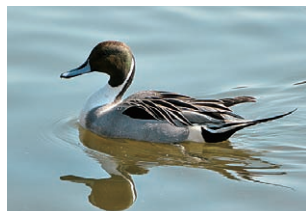
●オオバン

体は黒く、くちばしと^{ひたい}額が白いのが特徴です。潜水して^{せんすい}底に生えている水草を食べます。



●マガモ

カモといえば、この鳥です。オスは、首から頭まできれいな緑色をしています。昔から食用としていました。



●オナガカモ

顔が茶色で体がグレーなのがオスです。尾羽が長いのが特徴です。



●オオハクチョウ

ロシアから海を越えてやって来ます。全長140cm、5羽から7羽くらいの家族単位で行動しています。



●コブハクチョウ

くちばしがオレンジ色で、そのつけ根に黒いコブがあります。ヨーロッパから中央アジアにから来た外来種です。



●コクチョウ

オーストラリア原産で、^{わた}渡り鳥のように長距離は飛べないので、日本には輸入されてきました。

里山や高原などでしか見られない植物が身近なところで見られます。



●ミクリ

池の浅いところに生えています。夏に花を咲かせますが、実がイガグリのようなことからこの名前がつけました。



●ザゼンソウ

3月ごろ、枯草の間から、まるでお坊さんが座禅しているような姿で咲いているので、この名前がつけました。



●エビネ

ランの仲間^{なか}で、野生ではなくなる恐れがあるため、環境省のレッドブックで絶滅危惧種^{おそ}になっています。



●ウスゲチョウジタデ

水田や湿地に生えていて、7月～9月に黄色い花を咲かせます。



●ガマ

夏にソーセージのような穂^ほを見えますが、これはびっしり集まった花なのです。



●ツリフネソウ

水辺^{みずべ}などの湿^{しめ}ったやや暗いところに生えています。夏の終わりごろ3～4cmくらいの赤紫色の花を咲かせます。



●エゴノキ

日当たりのよい雑木林^{ぞうきばやし}でよく見かけられます。昔から親しまれ、5～6月に真っ白な花をたくさん咲かせます。



●ヤドリギ

樹木^{じゅもく}の枝や幹^{みき}に根をくいこませ、そこから水分^{すいぶん}や栄養^{えいよう}を吸収^{きゅうしゆ}して成長します。



●カワラナデシコ

秋の七草の一つで、別名^{べつめい}をヤマトナデシコ^{やまとなでしこ}と言います。1,000年以上前から日本にさいている花です。



●ホオノキ

高さ30mほどの木で、白い花をさかせます。枝の先のふくろにたくさんの実^みをつけます。

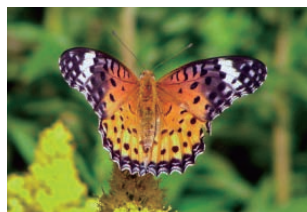


●タチツボスミレ

うすむらさき色の花とハート形の葉^はっぱが特徴^{とくちょう}です。日本全国の里山でみることがができます。



水や緑がいっぱいの千波湖周辺は虫たちの楽園です。



● ツマグロヒョウモン

黄色に黒丸もよう。昔は水戸市にいなかったけど、地球温暖化により見かけるようになりました。



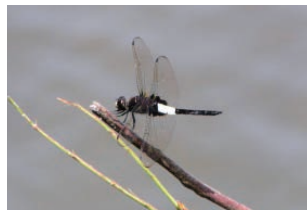
● マダラヤンマ

目とおなかの色をした小さなトンボ。水辺に生える「ヨシ」という草が大好きです。



● アカスジキンカメムシ

光ってきれいだけど、死ぬと黒くなってしまいます。他のカメムシと比べて、あまりくさくありません。



● コシアキトンボ

おなかの色がオスは白、メスは黄色なのが特徴です。オスは池や沼でなわばり争いをしています。



● ヤマトタマムシ

きれいな緑色に光り、背中に2本のじ色の線があります。最近では数が減ってしまいました。



● ナガサキアゲハ

名前のおおりの、長崎県に住んでいましたが、今では暖かくなった水戸市にも住むようになりました。

ホタルの再生

逆川緑地では、地域の人たちが子供たちと一緒にホタルの再生に取り組んでいます。今ではその活動が広がって、千波公園の西の谷や沢渡川緑地などでも、地域の人たちが協力してホタルの再生に取り組んでいます。



● ゲンジボタル

きれいな川に住む日本固有種です。背中に十字もようがあってゆっくりり円をかくように飛びます。



● ヘイケボタル

ゲンジボタルより少し小さく、飛び方は直線的です。背中には、たての線があります。

個性豊かな仲間たちは、他にもたくさんいます。

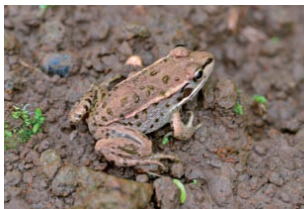
哺乳類



● ホンシュウカヤネズミ

体が6cm前後の、日本一小さいネズミです。河川敷などに生えているカヤなどの草の中に巣を作ります。

両生類



● トウキョウダルマガエル

トノサマガエルにととても似ていて、外見だけで見分けるのはとてもむずかしいです。

甲殻類



● サワガニ

日本にもとともいるカニで、その名のおおりの、水の流れが少なく浅い川である「沢」に住んでいます。

沼や川、わき水など、いろいろな環境に住む魚たちを見ることができます。



●アユ

川で生まれ海で育ち、夏に川を上ってきます。1年で一生を終える魚で、食用としておなじみです。



●オイカワ

全長15cmくらいで、藻や昆虫などを食べます。街中の川でもよく見かけることができる魚です。



●ゲンゴロブナ

全長30~40cmくらい。養殖された特に大きなものは「ヘラブナ」として釣り用に放流されました。



●ナマズ

全長60cmくらい。夜行性で昼間は川底でじっとしています。口ひげを使って小魚などのエサをさがします。



●モツゴ

全長5~10cmくらい。浅い沼や流れのゆるやかな川に住んでいます。多少汚れた水でも生息できます。



●カワヨシノボリ

一生川で生きることから、この名前がつきました。水のきれいな流れのある水草のかげによくいます。



●サケ

桜川には、毎年サケが遡上してきます。中心市街地までサケが遡上し、自然産卵をするということは、とても貴重なことです。川の清掃や稚魚の放流など、たくさんの方々の協力があるからです。

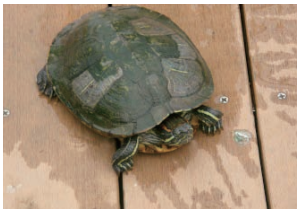
サケは産卵のため、生まれた川に帰ってくることで知られていますが、においや太陽の位置など様々な方法で戻ってくるという考えが有力です。川で生まれたサケは、海で4年後過ごしてから、産卵のために川を上ってきます。桜川に上ってくるサケは、何度も難所を抜け、産卵を終えるとその一生を閉じるのです。

はちゅうるい 爬虫類



●ニホントカゲ

体にたてしめがあり、危険がせまると自分のしっぽを切って逃げるけど、しっぽは、また生えてきます。



●ミシシippiaアカミガメ

アメリカから輸入され、「ミドリガメ」として売られていますが、特定外来生物に指定されています。

特定外来生物とは、法律で生態系、身体、農業などに被害をおよぼすおそれのある生物と指定されている生物です。他にも、魚では、オオクチバスやブルーギル、植物ではオオキンケイギクなどがあります。

千波湖周辺地区が重要湿地に選ばれました。

水戸市の中心部には、千波湖や桜川、逆川などのたくさんの水辺と緑が広がっています。多くの人が集まる中心市街地でありながら、たくさんの生き物が住む場所であると環境省から認められ、平成28年4月、重要湿地（生物多様性の観点から重要度の高い湿地）に選ばれました。

重要湿地の選定基準

- 1 湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合
 - 2 希少種、固有種等が生育・生息している場合
 - 3 多様な生物相を有している場合
 - 4 特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合
 - 5 生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、産卵場等である場合）
- ※ 1と2が該当していることから、千波湖周辺地区は選ばれました。



ホトケドジョウ（コイ目／タニノボリ科）

日本固有種で、全長7cmくらい。色は茶褐色から赤褐色で、体には黒いはん点があります。千波湖の周辺には湧き水が豊富にあり、砂や泥の底に住んでいます。食性は雑食で、底にいる生物や藻などを食べています。
環境省のレッドリストで絶滅危惧種に指定されています。

千波湖環境学習会

年10回開催。夜の昆虫観察やプランクトンを調べたり、渡り鳥の観察などを行っています。

主催：（一財）茨城県環境管理協会・水戸市環境課



発行：水戸市 生活環境部 環境課

写真提供者（順不同・敬称略）

小菅 次男 安 昌美 仲田 立 川島省二 森本 泰弘